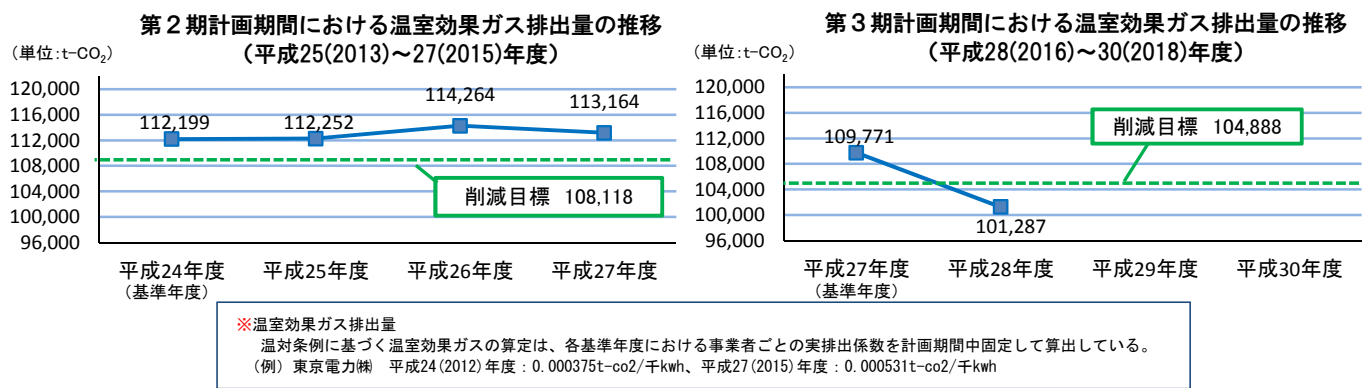


IV-1-(3) 温対法及び温対条例に基づく温室効果ガス削減の取組

上水 工水 下水

<p>取組概要</p> <p>○温対法及び温対条例に基づき、特定排出者・特定事業者として温室効果ガス排出量※について所管官庁への報告等を行う。</p> <p>○温室効果ガス削減に向け、設備更新に合わせた高効率型機器の採用などの取組を進める。</p> <p>○温対条例に基づく第2期計画期間（平成25(2013)～27(2015)年度）における温室効果ガスの削減目標 平成24(2012)年度⇒平成27(2015)年度約4,000t-CO₂（約3.5%）の削減</p>	<p>進行管理の指標</p> <p>温室効果ガス削減に向けた取組を実施</p>	<p>平成28（2016）年度の取組結果</p> <p>○入江崎総合スラッジセンター2系焼却炉の高温焼却開始により、CO₂排出量を削減</p> <p>○生田浄水場の上水施設等の廃止に伴い、電気使用量が減少</p> <p>○設備更新に合わせた高効率型機器の採用</p>
		<p>評価 B</p>

<p>3か年計画の総括</p> <p>○温対条例に基づく平成25(2013)年度～27(2015)年度を計画期間とした、最終年度における温室効果ガスの削減目標は、雨量の増加等により未達成</p> <p>○温対条例に基づく平成28(2016)年度～30(2018)年度を計画期間とした、平成28(2016)年度における温室効果ガスの削減に向けた取組を実施</p>	<p>今後の取組</p> <p>上下水道局全体での温室効果ガス削減に向けた取組を継続実施</p>
<p>評価 C</p>	



IV-1-(4) ISO14001認証取得・更新

上水 工水 下水

<p>取組概要</p> <p>長沢浄水場においてはISO環境方針に沿って、年度ごとに環境目標を定め、その達成に向け行動するとともに、環境マネジメントシステムの継続的改善に努める。</p>	<p>進行管理の指標</p> <p>[全部門共通目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電気使用量削減（平成27(2015)年度並み） ○コピー用紙及びOA用紙の使用量の削減（平成22(2010)年度並み） ○廃棄物のリサイクル化（平成28(2016)年度まで現状維持） ○グリーン購入の推進（100%） 	<p>平成28（2016）年度の取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電気使用量2.3%増加 ○コピー用紙使用量及びOA用紙使用量6.6%削減（平成22(2010)年度対比） ○廃棄物のリサイクル現状維持 ○グリーン購入100%実施
		<p>評価 B</p>

<p>3か年計画の総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電気使用量はほぼ横ばい ○コピー用紙及びOA用紙の使用量削減の目標を達成 ○リサイクル化100%実施 ○グリーン購入100%実施 	<p>今後の取組</p> <p>環境配慮への取組を継続実施</p>
<p>評価 B</p>	



ISO14001:2004 認証取得

IV-2 環境技術の研究開発及び活用

IV-2-(1) 下水道技術の研究開発

上水 工水 下水

取組概要	進行管理の指標	平成28(2016)年度の取組結果
<p>○東京湾における環境基準の達成・維持や富栄養化対策として、高度処理施設を効率的に整備するため、既存施設を最大限に有効活用する高度処理技術の開発を進める。</p> <p>○循環型社会の構築に向けて、下水汚泥を資源やエネルギーとして利用する技術の開発に取り組む。</p> <p>○新たな下水道技術の研究開発に取り組み、地球温暖化対策や省エネルギー対策を進める。</p>	<p>○返流水のりん負荷低減に関する調査・研究</p> <p>○汚泥焼却工程における温室効果ガス排出量の削減に関する技術開発</p>	<p>○返流水のりん負荷低減に関する長期的及び短期的な対策手法の検討を実施</p> <p>○入江崎総合スラッジセンター焼却炉において、一酸化二窒素と窒素酸化物の削減効果を確認する試験を実施</p>
		<p>評価 B</p>

3か年計画の総括	今後の取組
<p>○等々力水処理センター高度処理法について、実験プラントを使用した窒素除去性能の向上に関する研究開発を実施</p> <p>○下水汚泥燃料化物の製品品質の安定性の確認、製造方法、臭気対策や設備仕様等の検討を実施</p> <p>○入江崎総合スラッジセンター焼却炉において、一酸化二窒素と窒素酸化物の削減効果を確認する試験を実施</p> <p>○入江崎水処理センターにおいて、高効率な散気装置の下水処理への適用性に関する研究を実施</p>	<p>下水処理施設の省エネ化及び温室効果ガス排出量の削減対策の推進</p>
<p>評価 B</p>	



一酸化二窒素と窒素酸化物の削減効果を確認する試験設備

IV-2-(2) 環境技術を活かした国際貢献の推進

上水 工水 下水

取組概要	進行管理の指標	平成28(2016)年度の取組結果
<p>○世界の水環境改善に向けた官民連携による国際展開及び技術協力による国際貢献</p> <p>○川崎国際環境技術展への出展等による環境情報の発信</p>	<p>○官民連携による国際展開</p> <p>○専門家派遣及び研修生・視察者の受入れ</p> <p>○川崎国際環境技術展等国際展示会への出展</p>	<p>○かわさき水ビジネスネットワーク(以下「かわビズネット」という。)会員への水ビジネス創出に向けた情報提供</p> <p>○独立行政法人国際協力機構(JICA)「ラオス国水道公社事業管理能力向上プロジェクト」への短期専門家の派遣(2名)及びラオスで開催された国際セミナーに参加</p> <p>○国土交通省から認定された「水・環境ソリューションハブ」のハブ都市として、海外からの要人や研修生に下水道技術の情報を発信</p> <p>○海外からの研修生・視察者の受入れ(13か国・地域207名)</p> <p>○かわビズネット会員への情報提供及び川崎国際環境技術展等の各種イベントでかわビズネットの活動PRを実施</p>
		<p>評価 B</p>

3か年計画の総括	今後の取組
<p>○独立行政法人国際協力機構(JICA)「ラオス国水道公社事業管理能力向上プロジェクト」への短期専門家の派遣(7名)</p> <p>○国土交通省から認定された「水・環境ソリューションハブ」のハブ都市として、海外からの要人や研修生に下水道技術の情報を発信</p> <p>○海外からの研修生・視察者の受入れ(30か国・地域458名)</p> <p>○かわビズネット会員への情報提供及び川崎国際環境技術展等の各種イベントでかわビズネットの活動PRを実施</p>	<p>○かわビズネット会員への水ビジネス創出に向けた情報提供</p> <p>○独立行政法人国際協力機構(JICA)「ラオス国水道公社事業管理能力向上プロジェクト」に続くプロジェクトへの短期専門家の派遣</p> <p>○国土交通省から認定された「水・環境ソリューションハブ」のハブ都市として、海外からの要人や研修生に下水道技術の情報を発信</p> <p>○海外からの研修生・視察者の受入れ</p> <p>○かわビズネット会員への情報提供及び川崎国際環境技術展等の各種イベントでかわビズネットの活動PRを実施</p>
<p>評価 B</p>	



川崎国際環境技術展2017



JICAラオス国水道公社事業管理能力向上プロジェクト